

インターネットビジネスへ向けた初年度 ICT 教育のあり方

平川 幹和子

九州産業大学 商学部 商学科

hirakawa@ip.kyusan-u.ac.jp

概要：ネット通販・オークション・株取引・インターネットバンキングなど、現代の生活にはインターネットを利用したサービスが根付き、様々なビジネスが展開されている。そのような社会に適応し活躍する人材の育成を行うには、学生の視野を広げ、未経験分野へ挑戦するための敷居を下げる必要がある。そこで本研究では、ICT のビジネスへの応用を身近に感じ、学生自らが“何かを成したい”と思うために必要な教育的要素は何かを探る。

1 はじめに

インターネット通信販売・インターネットオークション・インターネット株取引・インターネットバンキングなど、現代の生活にはインターネットを利用したサービスが根付き、ICT を利用した様々なビジネスが展開されている。しかしながら大学生においては、手元にスマートフォンを持ちながらも、その利用は SNS での友人とのコミュニケーションであり、ネットゲームでの時間つぶしなどがほとんどである。これは、商いを学ぶ商学部商学科の学生でも同様であり、彼らは自分が手にしている携帯情報端末が今やビジネスの中心となっている現状や、それらがどのようにビジネスに利用されているかを積極的に知ろうとしない。この状況は、一般消費者としての立場であれば責められるものではないが、もはや ICT を利用しなければビジネスが成り立たなくなってきた社会で適応し活躍する人材としては不足である。

一方大学では、学生の視野を広げ、未経験分野へ積極的に挑戦する人材の育成を考え、インターネットビジネス関連の科目を開設し時代への適合を図ってきた。しかしながら、急速に拡大しているビジネスでの ICT 利用の現状を把握しきれず、学生への適切な教育が行われているか判断できないのが現状である。また、OECD（経済協力開発機構）が今年発表した国際成人力調査（PIAAC）[1]では、他の 2 つのスキル「読解力」「数的思考力」と比べ、日本人の「IT を活用した問題解決能力」の低さが明らかとなった。これは単純に結果が悪かったことよりも、このテストをパソコンで受験が可能かを判定する事前テスト（ICT コア）で日本人の不合格率が参加国中最も高かったことを問題視しなければならないだろう。このことは、

少なくとも本学商学部商学科の学生の多くが ICT に苦手意識を持ちながら授業を受けていることにも現れている。

そこで本研究では、コンピュータやインターネットを駆使しビジネスを展開している社会へ出る学生の視野を広げ、ICT のビジネスへの応用を身近に感じ、学生自らが“何かを成したい”と思うために必要な教育的要素は何かを探る。

2 学生の意識調査

2.1 調査目的

現在、九州産業大学商学部商学科では、1 年次に情報リテラシー、2 年次に情報ネットワーク基礎論および情報ネットワーク演習、3 年次に e コマース論および e コマース演習という ICT 関連科目が開設されている（平成 24 年度入学生まで）。それぞれの科目が複数の教員によって担当され、内容は統一されていない。また、選択必修科目の一つであり、受講生のスキルはバラバラでレベル差が大きい。そこで 2013 年 9 月に、2 年生科目として後期に開講される情報ネットワーク演習で何を学びたいかを商学部商学科の受講対象予定学生 50 名に聞いたところ、図 1 に示す結果を得た。

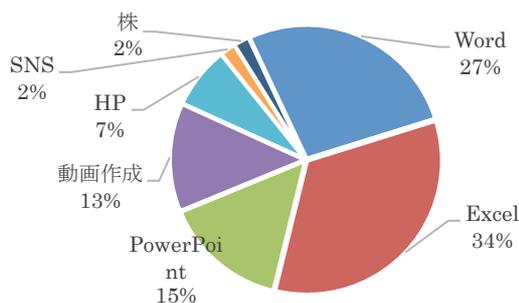


図 1：情報ネットワーク演習で学びたい事（複数回答）

学生の ICT スキル意識としては、まずは Word や Excel の習得である。その理由のほとんどは「就職に必要だから」というものであったが、さらに聞くとこれは学生の実感というより「人からそう言われる」「先輩たちに聞くとそうらしい」という漠然とした不安と刷り込みによるものであることがわかった。

このような学生にインターネットビジネス関連の講義をするには、彼らがインターネットを利用したサービスをどの程度知っているのか、ICT を利用したビジネス展開をどう捉えているのか、把握する必要がある。そこで、上記の結果を得た 50 名を含む 60 名に、インターネット通信販売・インターネットオークション・インターネット株取引・インターネットバンキング・電子出版等に関するアンケートを取ることにした。

2.2 調査項目

“インターネットとコンピュータを使ったビジネスについて”と題してアンケートを行った。設問は、単に学生の意識を知るためだけでなく、学生にそのような世界があることを啓蒙する意図も含め、次の内容で 46 問用意した。

【設問カテゴリ】

- コンピュータとビジネスの関わり
- インターネットとビジネスの関わり
- コンピュータと職業の関わり
- インターネットと職業の関わり
- 自分の将来像
- 電子マネーについて
- インターネットショッピングについて
- インターネットバンキングについて
- インターネット株取引について
- インターネットオークションについて
- インターネットゲームについて
- アプリケーションについて
- 動画について
- 電子出版について
- 情報サイトについて
- 情報弱者について
- セキュリティについて
- インターネットビジネスについて

2.3 調査結果で具体的な設問と結果を示す。

2.3 結果と考察（学生の意識と現実のズレ）

アンケートでは“インターネットを利用した各種サービスが存在することを知っているかどうか”“自分の将来と ICT の関わりイメージ”を主に聞いた。各設問と結果および考察を以下に示す。

【設問と回答】

1. 「コンピュータを使ったビジネス」と聞いて思い出すものを何でも書いてください。

表 1：設問 1 の回答（複数回答可）

回答	数
株	18
事務	15
IT 関係	14
ネットショッピング	5
商業（レジ、POS、販売）	5
金融（FX）	4
データ管理	3
オークション	3
プレゼン	2
※図書館の OPAC 他 23 項目	1

2. 「インターネットを使ったビジネス」と聞いて思い出すものを何でも書いてください。

表 2：設問 2 の回答（複数回答可）

回答	数
ネットショッピング	26
オークション	16
広告	8
株	6
オンラインゲーム	4
金融（為替、FX）	4
音楽ダウンロード販売	2
検索サイト	2
アプリケーション	2
メールサービス	2
アフェリエイト	2
※ネット調査他 15 項目	1

上記 2 つの結果から、学生が持つビジネスのイメージが“コンピュータ”と“インターネット”では違うことがわかる。また、複数回答可の設問で、「コンピュータを使ったビジネス」では“株”と答えた者が 18 人いたのに対し、「インターネットを使ったビジネス」では 6 人しかいない。株取引においてコンピュータがインターネットに接続されていることは常識であるが、それを学生が理解しているか不安な回答であった。

3. 「コンピュータを使う職業」と聞いて思い浮かぶものは何ですか？

表 3：設問 3 の回答

回答	数
プログラマー	16
事務員（企業、病院）	13
システムエンジニア	7
IT 企業関係	5
ゲームクリエイター	5
全般（サラリーマン）	4
販売	4
銀行員	4
デザイナー（Web 含む）	4
科学者・研究者	3
教員	3
鉄道・航空関係	3
公務員	2
※警備員他 13 項目	1

4. 「インターネットを使う職業」と聞いて思い浮かぶものは何ですか？

表 4：設問 4 の回答

回答	数
ネットショッピング	13
金融（銀行、証券）	7
広告会社	5
教員	5
システムエンジニア	4
オークション会社	4
オンラインゲーム会社	4
デザイナー（Web 含む）	4
販売員	3
警察	3
検索サイト	2
IT 企業	2
事務員	2
プログラマー	2
鉄道・航空関連	2
旅行業	2
営業	2
マスコミ	2
トレーダー	2
※科学者他 10 項目	1

文系の学生にとっては、いまだに「コンピュータを使う仕事」のイメージは“理系の仕事”といわれる分野が強いようであるが、「インターネットを使う仕事」では、“商い”に関するものが多かった。これはコンピュータを使う事に苦手意識を持

ちながらも、SNS やメールやインターネットショッピング（後述設問 10～12）などでインターネットには親しんでいる結果と思われる。

5. あなたは社会に出た自分が「コンピュータを使って仕事をしている」と思いますか？

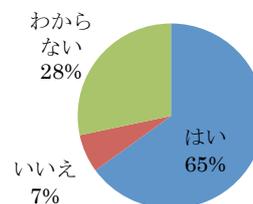


図 2：設問 5 の回答

6. あなたは社会に出た自分が「インターネットを使って仕事」をしていると思いますか？

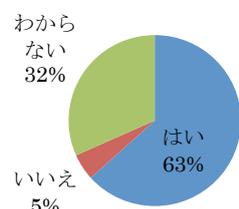


図 3：設問 6 の回答

7. あなたは将来、どのような職業（もしくは職種）につきたいと思っていますか？

表 5：設問 7 の回答

回答	数
事務・経理	8
営業	6
販売（小売り）	5
公務員	4
サラリーマン	4
不明	3
金融	3
何でも良い	3
広告業	2
ネットビジネス	2
※警察官他 12 項目	1

設問 7 で挙げられた“就きたい職”をみると、ほとんどの職が実務でコンピュータとインターネットを使っている。それにもかかわらず設問 5 および設問 6 では、6 割強の者が将来の仕事でコンピュータやインターネットを使って仕事をしているだろうと想像しながらも、約 3 割が「わからない」と答えている。これは、実際の仕事の現場と学生の持つイメージが合致していないことを示している。

8. あなたは「電子マネー」を知っていますか？
9. あなたは「電子マネー」を使ったことがありますか？※電子マネーには、ニモカ (nimoca)、Edy、WAON、などがあります。

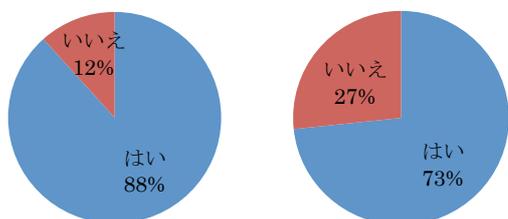


図 4：設問 8 (左) および設問 9 (右) の回答

10. あなたは「インターネットで買い物」ができることを知っていますか？

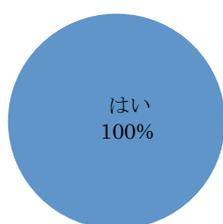


図 5：設問 10 の回答

11. あなたは「インターネットで買い物」をしたことがありますか？
12. あなたは「インターネットで買い物」をしたいと思いますか？

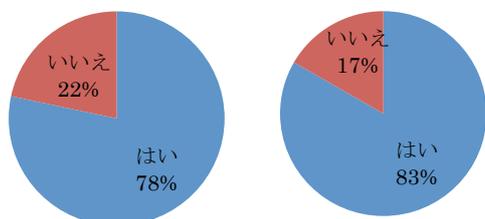


図 6：設問 11 (左) および設問 12 (右) の回答

設問 10~12 を見ると、インターネットと仕事や職業の関連づけを訊いた設問 2 および設問 4 で「ネットショッピング」と回答した者が最も多かった理由がわかる。全ての学生がインターネットで買い物ができることを知っている上、“買い物をしたことがある” “買い物をしたい” 者が約 8 割にのぼったことは、すでに生活の中にネットショッピングが根付き、拒絶反応もなく受け入れられていることを示している。

一方、下記に示すインターネットバンキング関連では、8 割弱の者がネット上で振込み等ができることを知っていながら、手数料が窓口や ATM より安いことを調べていない。これは、学生の生活にインターネットバンキングが入り込んでいな

いことを示している。また、その事実を知っても自分と関係ないと思う学生も多く、インターネットビジネスを教えるには、具体的な例を示しながら学生にとって利益があることを指摘する必要があると思われる。これは株取引も同様で、設問 15 および設問 16 の結果、さらには設問 46 において最も知りたいことに株取引が挙げられたことから、新聞やテレビなどの各種メディア等から入ってくる情報で株取引に非常に興味があり“やってみよう”と思っはいるものの自分で積極的に調べることはしない学生を、インターネットビジネスの入口に立たせるには、講義で株取引を教えるのも良い手段と思われる。

13. あなたは「インターネットで銀行の振込み」などができることを知っていますか？
14. あなたは「インターネットでの振込み手数料」が窓口や ATM の手数料より安いことを知っていますか？

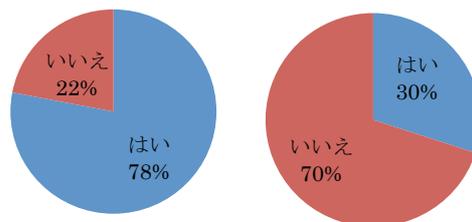


図 7：設問 13 (左) および設問 14 (右) の回答

15. あなたは「インターネットで株の取引」ができることを知っていますか？
16. あなたは“やる” “やらない” は別として、「インターネットで株の取引」のやり方を知っておきたいと思いますか？

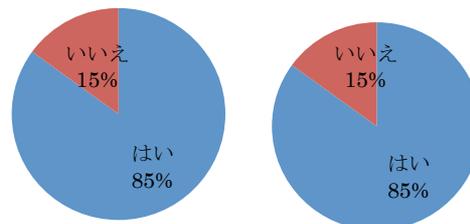


図 8：設問 15 (左) および設問 16 (右) の回答

前述したように、インターネットと言えは学生は即座に「ネットショッピング」を思い浮かべる。これは消費者として“買う”行為が身近であることを示しているが、ビジネスは“売る”行為が基本である。ウォーレン・バフェットは子供の頃、家の前でガムを売り、ゴルフ場のロストボールを拾って磨いて売り歩いた。ビジネスには行動力が求められる。

17. あなたは誰でも「インターネットで物を売る」ことができるのを知っていますか？
18. あなたは「インターネットで物を売った」ことがありますか？

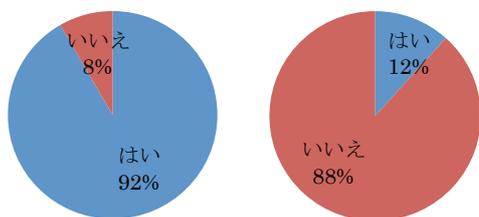


図 9: 設問 17 (左) および設問 18 (右) の回答

19. あなたは「インターネットで物を売る」方法を知りたいと思いますか？

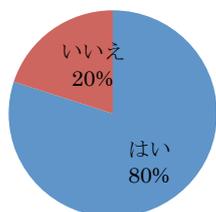


図 10: 設問 19 の回答

学生はインターネットで物を売ることができることを知っているが、ほとんどの者は売った経験がない。“売る”ことに興味を持ちながら、踏み出せないでいる。

現在、インターネット上では Yahoo! などオークションに手軽に参加できるシステムが整備されている。また、ネットショッピング最大手の Amazon でも、個人で商品が出品できる環境が用意されている。どちらも出品ルールが決められ、初心者でも手順通りに行動すれば売買を成立させることができる。このようなシステムを講義に取り込み、学生の売買に対する敷居を下げることであれば、学生が大学に在籍中にビジネスを立ち上げる可能性が出てくると思われる。

20. あなたは「パズドラ」を知っていますか？
21. あなたは「課金制のゲームなど」に支払ったことがありますか？

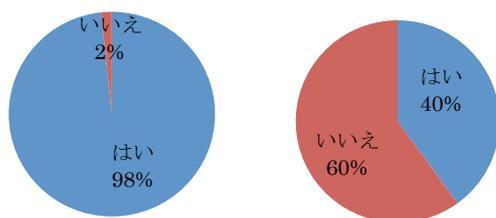


図 11: 設問 20 (左) および設問 21 (右) の回答

“パズドラ”はアイテム課金型ゲームであり、スマートフォンのオンラインゲームの代表格である。Line と並んで学生のほとんどのスマートフォンにインストールされているアプリケーションであるため理解しやすい。

22. あなたは「スマートフォン(スマホ)のアプリ」を使ったことがありますか？
23. あなたは誰でも「スマートフォン(スマホ)のアプリ」を作成販売する会社を立てることができるのを知っていますか？

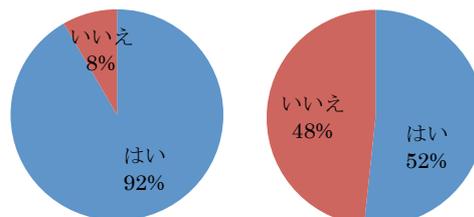


図 12: 設問 22 (左) および設問 23 (右) の回答

24. あなたは¥100 の「スマートフォン(スマホ)のアプリ」を 100 万人の人がダウンロードしたら幾らになるか計算できますか？
25. あなたは「スマートフォン(スマホ)のアプリ」を作成販売する会社を立てるにはどうすればよいか知りたいと思いますか？

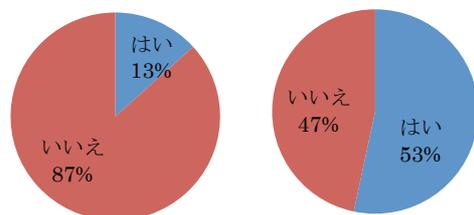


図 13: 設問 24 (左) および設問 25 (右) の回答

一部の学生は“スマートフォンのアプリを作成販売する”と聞いて「無理」と即答した。理由は「自分には作れません」ということであった。プログラムを学んでいない商学部商学科の学生がそのような考えるのは当たり前のことかもしれない。しかし、アンケートではアプリの作成販売会社の立て方に興味を持っている者が半数以上いた。これは会社形態でなくとも、iPhone や Android 携帯向けのアプリの販売に興味があるということである。

プログラムを知らない者でも、アプリの企画を上げ、作れる人材を探し、作成販売することはできる。Apple がどのような流れで iPhone アプリを公開しているのかを知ることは、世界を相手にビジネスする機会を与えることにもつながる。

26. あなたは「動画サイト」を見たことがありますか？※YouTube、ニコニコ動画など
27. あなたは「動画サイト」に投稿したことがありますか？

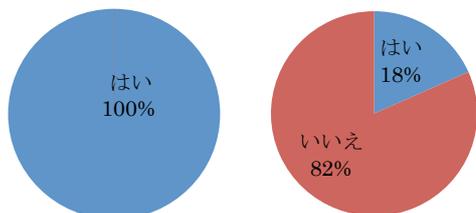


図 14：設問 26 (左) および設問 27 (右) の回答

28. あなたは「動画サイト」の投稿へ閲覧数によって広告費が支払われるシステムがあることを知っていますか？
29. あなたは「動画サイト」に企業の公式チャンネルが多数あることを知っていますか？

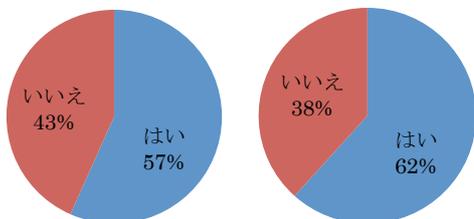


図 15：設問 28 (左) および設問 29 (右) の回答

設問 26 の結果を見ると、動画サイトは優秀な商業サイトであることがわかる。この点を企業もよく理解し、YouTube に公式チャンネルを持つなど、マーケティングに動画サイトを積極的に活用している。

動画サイトは誰でも映像を公開することができるが、学生の約 8 割が動画を投稿した経験がない。“YouTube”であろうが“ニコニコ動画”であろうが、動画の投稿に Apple のような申請 & 審査は必要ない。また、コンテンツも iPhone アプリと比較すると格段に作成しやすい。

インターネットでビジネスを行う場合に、環境がいかに身近であるかは大切な問題である。インターネット上で活動を行うことを学生が“特別”と思わず、普段の生活の一部（コンビニで弁当を買う・後輩に教科書を格安で譲るなど）と思うのであれば、インターネットで様々なビジネスの展開ができるであろう。そのために動画サイトの投稿は非常に有効と思われる。

一方、インターネットビジネスで外せないものがダウンロード販売である。これは Apple の iTunes ストアにおける音楽データ配信から盛んに

なった。映像コンテンツにおいても、レンタルビデオ店に出向き DVD 等を借りて返す手間も、Apple TV や PS Vita TV などのセットトップボックスの発売や iTunes Store や TSUTAYA TV、Hulu などのオンライン動画配信によってなくなった。この流れは全てのコンテンツに波及し、中でもここ数年の電子出版の変化は顕著である。

日本において電子出版はそれほど新しくない。1997 年には青空文庫が立ち上がり、2004 年には LIBRiE (ソニー)・Σ Book (松下電器産業) など電子ブックリーダーが相次いで発売になった。しかしながら、そのどちらも 2008 年には市場から撤退している。そんな中、2007 年に発売された Amazon Kindle は売り上げを伸ばし、2011 年にはアメリカの Amazon で販売されている電子書籍の売上げが紙媒体を越え、2013 年には紙媒体の 2 倍にせまる勢いと言われている。

このような状況で、日本でも携帯小説という特殊な形から脱却し、出版社が小説をはじめ週刊誌や漫画の電子書籍をダウンロード販売し始めた。学生に人気の集英社や講談社は、漫画を紙媒体で買うより安い値段設定で販売している。

30. あなたは「電子出版」を知っていますか？
31. あなたは「週刊誌や漫画や本が電子ブックとして配信されている」ことを知っていますか？

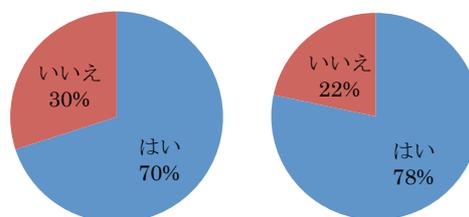


図 16：設問 30 (左) および設問 31 (右) の回答

32. あなたは「電子ブック」として配信されている週刊誌や漫画や本が、紙のものより安く販売されていることを知っていますか？
33. あなたはスーパーのチラシなどが「電子ペーパー」として配布されていることを知っていますか？

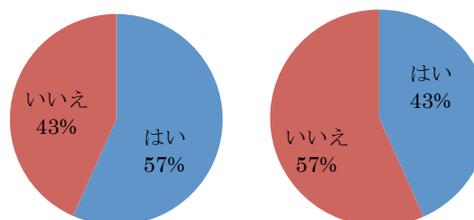


図 17：設問 32 (左) および設問 33 (右) の回答

34. あなたは「電子ブックや電子ペーパー」のシステムを知りたいと思いますか？

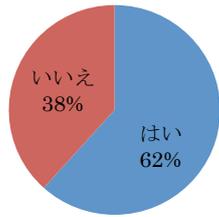


図 18：設問 34 の回答

非常に驚いたのは、図書館司書を目指している学生が「電子出版のシステムを知りたくない」と回答したことである。前述したようにアンケートの設問は学生への啓蒙も込めたものであるが、図書システムの OPAC には関心を示したものの、電子出版にはまったく反応がなかった。世の中の急激な変化に対応するスキルを持った人材育成が必要であると感じた。

35. あなたは「交通機関のインターネット予約サイト」を知っていますか？

36. あなたは「交通機関のインターネット予約サイト」を使ったことがありますか？

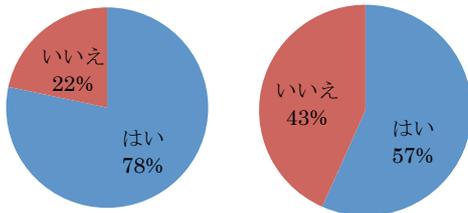


図 19：設問 35 (左) および設問 36 (右) の回答

37. あなたは「交通機関のインターネット予約サイト」の使い方を知りたいですか？

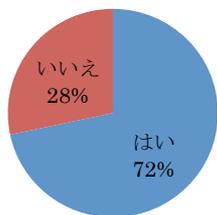


図 20：設問 37 の回答

IC カード乗車券の普及によって、公共交通機関の乗降は格段にスムーズになった。また、窓口や券売機での混雑も、インターネットでの乗車券の予約販売が行われるようになって解消されつつある。これは企業にとっても客にとっても都合が良く、ICT を活用したビジネスとして今後も進んでいく分野であろう。しかしながら、日頃から交通

機関を利用する学生の関心としては予想していたより低いように思える。設問 35 において約 6 割が自分を情報弱者だと思い、設問 40 において「情報弱者になりたくない」と思う者がほとんどであるのに、自分が生きていく社会に適応したい・不利益を被りたくないと思いつつも、具体的な行動をとることを拒否している。

38. あなたは「情報弱者」という言葉を知っていますか？

39. あなたは自分が「情報弱者」だと思いますか？

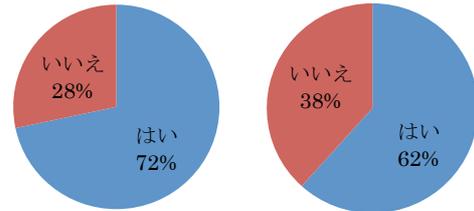


図 21：設問 38 (左) および設問 39 (右) の回答

40. あなたは「情報弱者」になりたくないと思いませんか？

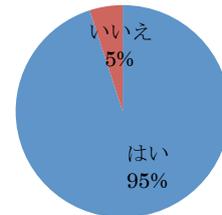


図 22：設問 40 の回答

インターネットでのビジネスには、様々な問題もついてまわる。情報の漏洩やネットワーク犯罪など、知っておかなければならないことが多い。そこで学生に、セキュリティとネットワーク犯罪についてどのような意識を持っているのか訊いた。

41. あなたは「セキュリティ」についてどのくらい知っていますか？

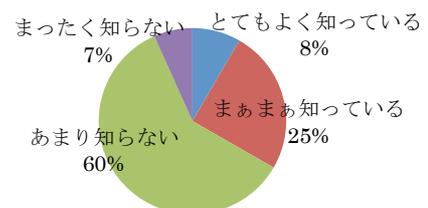


図 23：設問 41 の回答

42. あなたは「セキュリティ」についてどのくらい知りたいですか？

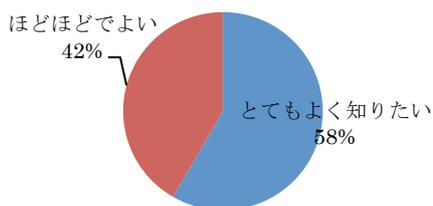


図 24：設問 42 の回答

45. あなたは「インターネット上で行われていること」を知りたいですか？

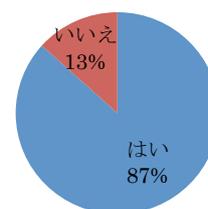


図 27：設問 45 の回答

43. あなたは「インターネット犯罪」についてどのくらい知っていますか？

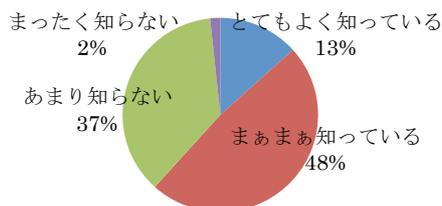


図 25：設問 43 の回答

44. あなたは「ネットワーク犯罪」についてどのくらい知りたいですか？

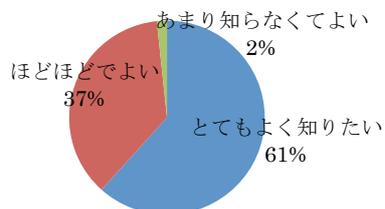


図 26：設問 44 の回答

46. あなたが詳しく知りたいと思う「インターネット上で行われていること」を教えてください。

表 6：設問 46 の回答

回答	数
株	13
インターネット犯罪と対処方法	7
ネットショッピングの仕組み	6
オークション	5
インターネットビジネス全般	5
裏ビジネス (個人情報の取引、ハッキング)	5
動画	4
無料サービスのビジネスモデル	3
予約システムの種類と仕組み	2
検索エンジンの仕組み	2
※セキュリティ他 6 項目	1

インターネットで行われていることを知りたい学生は約 9 割にのぼる。また、詳しく知りたいことでは、株取引が最も多かった。

3 まとめ

学生がインターネットに興味を持つ理由は大きく分けて 2 つである。“金を稼ぎたい”か“身を守りたい”である。「金稼ぎ」は生きていく上で至極真つ当なことであるため、この学生の意識を上手くインターネットでのビジネスに結びつけてやることができれば、良い教育効果を得ることができると考える。来年度の e コマース論/e コマース演習にて、株やオークション・ネットショップを実際にさせて反応を見たいと思っている。

参考文献

- [1] 文部科学省白書・統計・出版物 > 統計情報 > 国際成人力調査 (PIAAC : ピアック)
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/Others/1287165.htm

「セキュリティ」においても「ネットワーク犯罪」においても“とてもよく知りたい”と答えた者が約 6 割いた反面、“ほどほどでよい”と答えた者が約 4 割もいることに驚いた。これは学生がセキュリティもネットワーク犯罪も自分とはそれほど関係ないと思っていることの現れと考えられる。インターネットでビジネスを展開する企業が増え、セキュリティ対策に腐心し、ネットワーク犯罪に細心の注意を払う中、将来企業で活躍すべき学生の意識が低い。情報漏洩においては、外部からの攻撃よりも内部の人間の犯行が多いと言われていることを考えると、簡単に複製や移動ができるデータの扱いをどう制するのかが問題である。

最後にアンケートでは、学生がインターネット上の何に興味を持っているのか訊いた。